

『万暦野獲編』校記（一）

名古屋大学東洋史研究報告 四十四号 二〇二〇年三月発行

井上 進

本誌前号に発表した拙稿「『万暦野獲編』の版本問題」なる一篇において、筆者は「今日ひろく通行する中華書局本

『野獲編』の本文には、少なからぬ問題が存在する」ので、「今後この書の校勘に従事し、その結果を本誌に発表したいと考えている」と述べたが、この予告を実現したのが本篇である。もっともさきの一文でも、この「校記」は「かなりの長編とならざるを得ず、一度にすべて公表することは無理」だと述べたように、本篇は今後何回かに渉るであろう連載の第一回で、かつ最初的一篇であるがゆえに、校勘の結果を校記としてまとめるに当たっては、あれやこれやの試行錯誤が避けられず、よって取りあえずは首三巻について記すのみに止まっているのではある。しかしこのいわば見本によっても、先睹為快とでもいうか、中華書局本の問題がどのようなもの

で、それがどの程度解決できるのかを示すことはできるであろう。

以下、凡例的な事柄をいくらか記しておく。まず本校の底本には一九五九年初版、中華書局「元明史料筆記叢刊」本の、八〇年第二次印本を用いた。すでに述べたとおり、中華書局本（以下では中華本と称する）は今日ひろく通行していて、これ以外の本を読本とするというのは、よほど特殊な情況でしか考えられなくなっており、本「校記」の実用性を考えるなら、中華本を底本として他本との異同を示す、というのは当然のことであるだろう。なお第二次印本を用いたのは、単にそれが校者の読本であったから、というだけの理由にすぎず、よって本稿で出校されている異同の中には、九七年の第三次印本では訂正されているものがあるかもしれない

い。また聞くとところでは、近年には中華本と異なる「校点本」も出版されている由であるが、それがどのようなものであるかは未詳で、今は問題としない。

対校に用いた諸本の詳細については、拙稿「版本問題」を参照されたく、今は各本の略称や出校の範囲などについてのみに、簡単に述べておく。まず所校諸本の略称とその概要は以下のとおり。

(一) 甲本。台北・国家図書館蔵の約康熙中鈔本。二十卷補遺一卷続編十二卷からなる。

(二) 乙本。同上蔵で鈔写年代は約道咸間か。本文は甲本と同系ながら、少なくとも現状では正編二十巻のみで補遺以下はなし。なお以上の二本が一致している文字を出校する際には、「二本」云々と記す。

(三) 丙本。中央研究院歴史語言研究所蔵の約康熙中鈔本。中華本と同じく錢枋の改編を経たもので、三十卷補遺不分巻からなる。なお甲乙丙三本が一致している文字については「三本」云々と記す。

(四) 丁本。台北・国立故宫博物院蔵の約康熙中鈔本。現状では錢枋改編本の補遺のみからなっている。

(五) その他、必要に応じて中華本の底本たる道光七年錢塘姚

氏扶荔山房刊本を引く場合は、これを道光本と称した。

底本と所校諸本との間に見られる異同のうち、底本が正しく所校本が誤りであると判断したものについては、出校しないことを基本とする。避諱による改字については、それが改字であるのかどうか、必ずしも容易には判断できない場合があつて、本来なら出校した方がよいのだが、本校ではおおむね出校していない。異体字や通用字についても、特に誤解を招きやすい場合を除き、基本的には出校しない。また底本と所校本に異同があつても、たとえば「吾」が「我」になっているといった、意味に相違なく、本文の特徴を示すというわけでもないようなものについては、おおむね出校しない。さらに本書には一条の記事のうちに、○印をもつて内容を区切っている場合が往々あり、旧鈔諸本ではその区切りが底本より多くなっているのだが、これも出校しない。

以上を要するに、本校の出校範囲はすこぶる狭く絞られているのだが、これはまったく篇幅のゆえ、細かい異同まで取り上げようとすれば、全書の校勘結果を発表することが極めて困難となってしまうためである。結果として、所校各本の面目を備さに伝えられなくなったことは、正直言つて自らもあきたらざるところで、今後もし機会が得られれば、より詳

細な校記を改めて示したいと考えている。

なお校記各条の冒頭には巻第とそれがその巻の第幾条であるのかを、たとえば1-1といった形で示し、さらに所校本が何であるのかを上記の甲乙丙丁で記した。また校記の本文は中国語(文言)で記した。和臭のきつい、おかしい表現になつているところは無論あるだろうし、意味がうまく通じていない場合さえあるかもしれないが、記すところの大半は「某本作某」、「某本有某字」といった型通りのものであり、これを一々和文で記せばいたずらに篇幅を増すのみで、利よりも害の方がはるかに大きいと考えたのである。諒としていただければ幸いである。

万暦野獲編序(甲乙丙) 二本無篇題、丙本作小引。

適先人棄養 適字三本無。

逌廻無成 廻、乙本作述。

著述以名世輒復 名世輒復、三本作自見因稍。

余以退耕 余、二本作予、丙本脱。

述事 事上三本有近字、当扞補。案、道光本作述時事。

沈德符題 沈德符、三本作自。

統編小引(甲丙) 甲本無篇題。

德符幸生 德符、甲本作余。

万暦野獲編共卅卷 卅、甲本作二十、丙本作廿。案、其卅

卷者乃錢枋改編之本、決非沈氏原本之旧也。本書補遺五

世孫振序亦云「先高祖孝廉公撰万暦野獲編二十卷又統編

十二卷」、可見作二十或廿是。

耳剽目睹皆德符 睹、丙本作擊。德符、甲本作余。

德符少生 德符、甲本作予。

書生語言 語、丙本作話。

後人之斥正 斥、甲本作斤。

万暦四十七年己未歲新秋題於敝帚齋 四十七年四字甲本

無。歲字甲本丙本俱無。齋、丙本作閣。

補遺序(丙) 丙本無篇題。

具已漸減 具、丙本作俱。

原目俱在 俱、丙本作具。

伝鈔互異 伝鈔、丙本互錯。

惟次第非復本来 惟、丙本作雖。

作為八卷 丙本無此句。案、丙丁兩旧本補遺為不分卷、其

訂為四卷或八卷者、當是後人所改、則此句亦即後來竄入

者耳。

小子搜緝之力 小上丙本有余字。

憑式之也 憑式、丙本互錯。

補遺跋(丙) 丙本無篇題

朱竹垞至未就也數句、丙本作小字。

謹按以下、丙本提行又低一格。

111 告天即位(甲乙丙)

其於天下人民 於字二本無、当刪。

真合堯舜湯武為心也 堯舜二字二本無。案、堯舜禪讓、湯

武放伐、則元明革命之際、似不宜引堯舜為例。

112 奉先殿(甲乙丙)

而以上元配孝懿皇后祔享 此十一字二本無、下文三后作二

后。

文皇鼎建 皇下三本有帝字。

113 京師帝王廟(甲乙丙)

時李任邱為春卿 任邱二本作任丘時、而其時字、乙本作小

字。

宜挾善地 挾上二本有別字。

阜成門 成、三本作城。

八銜 八、三本作八、是。

114 帝王配享(丙) 除將虜寇作空格外、無他異同。

115 孝慈錄(甲乙丙)

諒陰 陰、二本作闇。

116 御製文集(甲乙丙)

以建敷文閣 以字二本無。

太祖高皇帝宣宗章皇帝 二本但記廟号而無諡号、即作太祖

宣宗。

留神翰墨 神、甲本作心、乙本作意。

世宗之制礼樂 之字二本無。

直學為大龍待制為小龍直閣為假龍 三為字二本俱無。

117 訪求遺書(甲乙丙)

克故元 故字甲本無、乙本作前。

「則地遂禁嚴」以下十六字、二本無。

自宏政以後 宏政、三本作弘正、是。

一心玄教 玄、二本作道。

故元起沙漠 故元、二本作元人。

収貯板刻 板刻、乙本互錯。

118 賜百官食(丙) 無異同應出校。

119 国初實錄(甲乙丙)

為誣罔命再修 罔、二本作因、是。

而總裁則 而、二本作其。

1110 監修實錄(甲乙丙)

建文君新即位 君、二本作帝。

高異志 異、二本作遜。案『猷徵錄』七十闕名撰伝、有小

注云「遜、一作異」。

齊府副理審 副理審、二本作審理副、是。丙本誤理審副。

1-11 避諱 (甲乙丙)

至情宜然 宜、二本作当。

章諡号 章下二本有皇帝二字、当挹補。

太祖御諱 御字二本無。

1-12 璽文 (丙)

神人致上命 命上丙本有帝字、当挹補。

1-13 園廟缺典 (甲乙丙)

亦填御名 名、二本作諱。

1-14 陵寢之祭 (甲乙丙) 無異同応出校。

1-15 建文君出亡 (丙)

英録中有此事也 丙本亦同、而其英録、疑即実録之訛。

1-16 龍潜旧邸 (甲丙)

似亦升州為府 似字甲本無。

宜亦改為府治 宜亦、甲本互錯。

尤宜急升為府 急、甲本作亟。

以諸州属之 州下甲本有県字。

1-17 年号 (甲乙丙) 無異同応出校。

1-18 太廟功臣配享 (甲丙)

夏文愍……曾建論謂 論、甲本作議、是。案、下文有云

「夏貴溪之議」。

唐胄曾力争 争、甲本作諫。

高拱楊溥等 溥、甲本作博、是。

1-19 賜外国詩 (甲乙丙)

永樂三年……命封其国 命上二本有即字。

兩崖露日 日、二本作石、是。

海船二隻 船、二本作舟。

服御綺繡 綺、二本作絺、是。案『書』益稷云「黼黻絺繡」。

敢鞠凶 凶、二本作誼。案『詩』節南山云「降此鞠誼」、

鞠鞠通。

封為一國鎮……上命封長軍鎮国之山 封為上二本有乞字、

当挹補。又一国下、乙本有之字。軍、二本作寧、是。

道以象訊 訊、丙本作胥、二本作空格。

遣其礼樂 礼、二本作休。

匪厚偏薄 厚偏、二本互錯、是。

万禩所未有也 未有、二本作無。

1-20 积樂工夷婦 (丙)

命中官遣回 遣、丙本作送。

冗濫破冒 破冒、丙本互錯。

1-21 賜図記（甲乙丙）

宣宗賜蹇夏三楊 三、二本作二。案、上文云「至仁宗朝蹇

夏三楊」、而此時楊溥未為大僚、至宣宗即位後始入閣。

李賢『古穰文集』三十、雜記三云「宣廟時、二楊用事」、

蓋亦實錄也、則二本之三楊與二楊、似宜互錯。

1-22 節飯（丙）

似此不近人情 似、丙本作至。

伶官排長 排、丙本作俳、是。案、道光本不誤。

1-23 中秋無月詩（甲乙丙）

拚今宵倚闌 拚、二本作拚。案、拚拚與判同、甘願之意

也、見張相『詩詞曲語辭匯釈』。

1-24 先朝四駿（丙）

垂失帖木 失、丙本作夫、疑誤。案、瓦剌也先次子阿失帖

木兒、似與此同名。

靈壁 壁、丙本作璧、是。下同。

1-25 從寵誅賞迥異（甲丙）

鬱林州知州 上州字甲本無。

至英宗朝赦出 朝字甲本無、又出下有其罪二字。

因侍上上還北京 上字甲本不疊。

1-26 賜講官金錢

李古廉為侍講學士 講、甲本作誦、是。案『明史』李氏本

伝、宣宗至史館云々、事在宣德五年、其官已遷侍誦學士

也。

似未必有此 似、甲本作疑。

1-27 広寒殿（丙）

其後日就傾圯 其、丙本作以。

1-28 蟒衣（甲乙丙）

惟司礼首璫常得之 首、二本作大、又無常字。

諸韻書皆云 諸、三本作誦。

今蟒衣皆 今字二本無。

内外官有賜者 外、二本作臣。案、上文謂蟒衣旧時惟司礼

大璫得之、則作内臣似是、但既云内臣、則其官字難以着

落矣。

1-29 天順年号（丙）

魏元冲 元、丙本作玄、是。其元字蓋避諱而改。

1-30 英宗即位日期（丙）

南濟王奐 濟、丙本作齊、是。案『南齊書』四十九有王奐伝。

父祖与京 京、丙本作身。

1-31 復辟誅賞之濫（甲丙）

以致教坊司、致字甲本無、丙本作至。案、甲本是也。

岳正僅以 正下甲本有則字。

降虜 虜、甲本作彝、丙本作空格。

為一時 甲本作一時為。

匈奴 甲本作彝人。

1-32 景泰初賜辺臣勅（甲乙丙）

今得鎮守大同等官 鎮守与大同各二字、二本互錯。

切不可聽 切、二本作決。

已布告辺將 布、二本作播。

清化知府 府、二本作州。案『說史方輿紀要』一百十二、

清化府領州四、内有清化、則其府州之孰是、未可遽定。

1-33 憲孝二廟盛德

進献于紀妃 妃、二本作后。

先帝在天之心 在、二本作上。

聖学超越古昔 超字二本無。

究不能得 究下二本有竟字。

1-34 君相異稟

進講取旨 取、三本作承、是。

每坐堂皇 皇字甲本作圈抹去、当捫刪。

初起部郎 起、二本作從、是。案、郎中絕非進士初授之官。

1-35 貢鮮貢茶

去二祖廟未遠 廟、丙本作朝。

1-36 召对（甲丙） 無異同応出校。

1-37 重修会典（甲乙丙）

再命諸詞臣 諸字二本無。

聖意深矣 深、二本作淵。

1-38 弘治中年之政（甲乙丙）

宏（弘）妙大護法王 護、二本作悟、是。案、『實錄』成

化四年四月庚戌条与二本同。

緩疏之說 緩、二本作煖、是。案、『實錄』弘治十年四月

丁亥条与二本同。

太監汪真梁芳 真、三本作直、是。案、下文有云直芳、諸

本並無異同。

黃圉快船 圉、二本作馬。

得無權輿於此歟 得、二本作將。丙本因有涂沫不易辨識、

似本亦作將、後改為得。

1-39 進璽（丙） 無異同応出校。

1-40 御膳（甲乙丙）

故以烹飪 故以、二本互錯、是。

茹蔬之中 茹蔬、二本互錯、是。

俱仍為故事 為字二本無。

奉賜所得 賜、二本作使、是。丙本原与是同、而改為使。

或至齟齬 或至、二本作以致、是。

1-41 先朝藏書（甲乙丙）

歷朝所去已強半至正德 去、二本作失、又無至字。

中書胡熙典籍劉禕 禕、二本作偉、是。案、『實錄』正

德十年十一月甲辰条云「中書舍人胡頤・序班劉偉、……

偉改典籍」、則胡熙似亦胡頤之訛。

楊升庵因乃父 庵下二本有太史二字。

1-42 御輅（甲乙丙）

扶曳以歸 以、二本作而。

1-43 武宗游幸之始（甲丙）

已漏下久矣 漏上甲本有伝字。

持祿默默矣 矣字甲本無。

1-44 武宗托名

太師鎮國公後軍都督府帶俸 後軍都督府五字、甲本在太師

上、又無帶俸二字。

礼部尚書傳珪……疏駁之 部尚二字甲本無、疏上有以字。

下院之說亦止 止、甲本作寢。

紀之異典者 者字甲本無。

与朝參官無異 与、甲本作如。

1-45 武宗再進爵号（丙） 無異同応出校。

1-46 人主别号（丙）

凝道雷軒之印 之、丙本作子。

1-47 帝后别号（丙） 無異同応出校。

1-48 御賜故相詩（甲乙丙）

征寧庶人 人字三本無。

其最後一律 律、二本作什、是。

今世宗登極 今、二本作至、是。

1-49 白服之忌（甲乙丙）

晏居 晏、甲本作宴、乙本作燕、丙本原与此同、而改為燕。

征宸濠 宸、二本作寧。

1-50 禁宰猪（丙）

左侍郎王抄奉 王下丙本空一格。

将豕牲不許 牲字丙本無。

1-51 禁殺怪事（丙） 無異同応出校。

1-52 填上馬房（丙）

房部一郎官司之 房、丙本作戸、是。

内官梁芳 芳、丙本作方、是。案、方時為御馬監太監、見

『實錄』成化十八年正月乙亥条。

1-53 伶官干政（甲乙丙）

朱耶之季 季、二本作李、是。案、李謂後唐莊宗。

復用賢薦 用、二本作以。

肩輿呼殿 呼、甲本作呵、是。

2-1 世宗入紹礼（甲乙丙）

皇太后令旨 令旨、二本互錯、是。

於行殿上牋 牋、三本作箋。案、『会典』等制書皆用箋字。

礼部具議 議、三本作儀、是。

此旨已下 已、三本作既。

2-2 引祖訓（甲乙丙）

「之文」至「弟及」十九字、二本脱。

2-3 世室（丙）

亦既安祀 既、丙本作已。

十八年二月 十、丙本作于、是。案、事見『實錄』嘉靖八

年十月乙巳条。

2-4 御製元夕詩（甲乙丙）

費弘 弘、三本作宏、是。案、費氏為成化二十三年丁未科

状元、其名明版諸書皆作宏、絕非避清諱而改者。原校云

「原作宏、扨明科名錄改」者非是、当改回。下同。

為璵輩所撓 輩、二本作粵等。案、粵謂桂粵、而上文並未

言及桂氏、則此云璵粵似不妥。

2-5 定策廢罷迴異（甲丙）

為物清婦嚮 清、甲本丙本俱作情、是。

四月廿二日登極 極、甲本作大位。

鴻猷錄遂謂鎮国朱寿之出 鎮国、甲本作鎮公国、乃鎮国公

之誤。出、甲本作勅、是。案、事見『鴻猷錄』十四、江

彬之變、又本書卷一、武宗托名条可參。

錦衣指揮同知 衣下甲本有衛字。案、上文云「世襲錦衣指

揮」、甲本亦無衛字。

2-6 嘉靖初議大礼（丙）

命礼部會議 命、丙本作令。

2-7 帝社稷（甲丙）

薦新先蚕等祀 新下甲本有与字。

以大高元（玄）為 大字甲本無、当扨刪。

撰元（玄）諸僊臣 僊、甲本丙本俱作倖、是。

至尊親稼之所 親、甲本作觀、是。

2-18 景靈宮(丙)

列后列帝神像 列后与列帝各二字、丙本互錯、是。

2-19 配天配上帝(丙) 無異同應出校。

2-10 会典失載(甲乙丙)

湖広田額 田額、二本互錯、是。下文有云「河南額田」、

正不誤也。案、額田謂錄於黃冊、被徵稅糧之田、則上下

文「天下田額」句、亦宜照改。霍韜疏見『實錄』嘉靖八

年六月癸酉条、又霍氏『渭崖文集』三、修書疏可參。

內監統天官 統下乙本有於字。

官府供応之式 官、三本作宮、是。

送付文館 文、三本作史、是。案、史館謂翰林院、重修会

典之局也。

2-11 駁正大礼(丙)

下吏及昌言 及、丙本作反、是。

□成薛侃之謀 □、丙本作誘、当扨補。

2-12 猷帝称宗(丙)

事雖不行 事、丙本作疏。案、丙本原作事疏、而将事字抹

去。

2-13 邵経邦議議礼(甲乙丙)

專選碩徳 專、二本作博、是。丙本誤転。

從末減与 与、三本作歟。

若経邦者 若、二本作将無。

2-14 更正殿名(甲乙丙)

以存三年無改之義 存、三本作表、是。

必手秉此圭 手字二本無。

亦必奉天為号 必下二本有以字。

亡金 甲本作夷虜、乙本作夷鹵、丙本作空格。

蓋以議出中官 句末二本有也字、当扨補。

喜諫諍 諍、二本作爭事。

金英覃昌 昌、乙本作吉、是。案、金覃兩人俱見『明史』

宦官伝。

2-15 玉芝宮(甲乙丙)

未有并告者 并告上二本有并祭二字、当扨補。

命如所議 議、三本作擬、是。

存此旧朝 朝、三本作廟、是。

示意於後 於後、三本作後人。

2-16 齋宮

於元(玄)都殿 於下二本有太字、乃大字之訛。『實錄』

嘉靖四十四年三月癸亥条可參。

紫皇殿 皇、三本皆誤星。案、『實錄』嘉靖三十四年十二

月丁未条云「建紫皇殿成」。

未必能御矣 未必、二本作不、是。

禁籙初起 起、二本作啓。

頗甚幽致 甚、二本作具、是。

羅植於庭間花時 間、三本作聞、疑即開字之訛。

輒眼已成蔓草 句首二本有茲字。

下旨令見新 見、甲本校改為建、是。

2-17 無逸殿（甲乙丙）

李時翟鑾輩 輩字二本無。

2-18 西內（甲乙丙）

辛酉歲永寿火後 寿下二本有宮字。

雷札材譜 材、三本作才。

片言稍逆 逆、二本作迂。

以分宜同里 以、二本作与。

2-19 代祀（丙）

高拱法官 官、丙本作宮。案、法官亦法官也。

不能有所諫正 正、丙本作止。

2-20 聖誕忌辰同日（甲乙丙）

至靖嘉三年 三、甲本丙本作二、是。案、事見『實錄』嘉

靖二年八月丁未条。

先行孝慈奉祭祀 孝慈下二本有忌日二字。

孝慈雖開天聖母 孝慈下二本有后字。

宣莊忌辰 莊、二本作宗、是。

孝武二廟 孝上二本有在字、又廟作朝。

2-21 世宗聖孝（甲乙丙）

嘉靖丙午外計 午、二本作戌、是。案、明制、外察以辰戌

丑未歲舉行。

2-22 講學見黜（甲丙）

疑其人主爭衡 其下甲本有与字、当扨補。

雖用他語得罪 用、甲本作因、是。

人情不甚相遠 情、甲本作心。

隆慶初元 元、甲本作年。

聶貞襄任本兵 任、甲本丙本作在、是。

解頤心折 解頤、甲本互錯。

門牆第一人 人字甲本無。

司馬光之与邵堯夫 与、甲本作于、是。

共重踰於王公 共、甲本丙本作其。

2-23 進詩獻諛得罪（甲丙）

非上同聖語乎 同下甲本有于字。

2-24 賀咥鳥獸文字（甲乙丙）

帝舜之庭如玉其羣庭、二本作廷。羣作輝、是。案、其作羣字、蓋音同而誤。

此亦一也 此句二本作「亦其一也」。

世宗廟 廟、二本作朝、是。丙本原亦作朝、而後人涂改為朝。

万寿山 寿、三本作歲、是。案、万歲山即景山。

化獅成龍等語 語字二本無。

祇半年內事耳 內字二本無。

「癸亥年」至「羣臣表賀」二十四字、二本無。

2-25 廟議獻諂不用（甲丙）

此輩儉邪 儉邪二字甲本無。

狂恣蔑礼 句末甲本有也字。

2-26 捐俸助工（甲丙）

議借百官之俸 借、甲本作捐、是。案、篇題下文皆云捐俸。

2-27 工匠見知（甲丙）

盡奪其官 盡奪、原校云「拋写本補」、甲本与「写本」同、

丙本作命罷。

躬自操作則 則、甲本作皆。

勸上改必進吏部 勸、甲本作勒。

2-28 觸忌（甲乙丙）

苦虜之擾 虜、二本作胡、丙本作空格。

学士徐璫 璫、乙本作縉、是。案、徐縉、吳縣人、弘治

十八年進士、官至吏部侍郎。

每写夷狄 狄、二本作虜。

2-29 正嘉御宝之燬（甲丙） 無異同心出校。

2-30 符印之式（甲乙丙）

加製其七 製、乙本丙本作制、甲本誤至。

厚載之紀 紀、二本作記、是。案、其印文見『實錄』洪武

四年正月戊戌条。

雖事体不殊 体字二本無。

其他則必帶 則字二本無。

印之制無可考 制下二本有則字。

2-31 嘉靖青詞（甲乙丙）

諛妄不典 諛、二本作誕、是。

屑金為泥 金字二本無、又屑上乙本有研字。

2-32 嘉靖始終不御正宮（甲丙）

比肅皇 皇下甲本有帝字。

亟促冬官 亟、甲本作急。

意頗疑懼 懼、甲本作畏。

2-33 大行喪礼 (丙) 無異同必出校。

2-34 實錄紀事 (甲乙丙)

兩朝實錄 朝、二本作廟。

2-35 實錄難拋 (丙) 無異同必出校。

2-36 兩朝仁厚 (丙) 無異同必出校。

2-37 主上改臣下名 (甲乙丙) 無異同必出校。

2-38 聖主命名 (甲丙)

千古未有也 句首甲本丙本有又字。

2-39 朝觀官進獻 (甲丙)

以佐國計 計、甲本作用。

2-40 今上聖孝 (甲丙)

生母李皇貴妃 皇字甲本無。

2-41 今上御筆 (甲乙丙)

江陵吳門 門、二本作景。

2-42 貞觀政要 (甲丙)

条目首甲本有論字。

上御文華 華下甲本有殿字、下同。

劉基輩用夏變夷 此句甲本作「劉基等出幽遷喬」。

後先權宜 宜、甲本作衡、是。

評論魏徵太宗 太上甲本有唐字。

似乎未經御覽 乎字甲本無。

未審當聖意 審、甲本作深、与原校引「写本」同。

迄成塵坌 迄、甲本作遂、是。

酒色財氣四箴 酒色財氣四字甲本無。

2-43 冲聖日講 (甲乙丙)

僅侍班閣部大臣 侍、二本作得、而甲本有後人校筆、改為

侍、丙本則侍上有得字。案、丙本似是。

駕幸文華 華下二本有殿字。

再讀史書 讀、甲本作講、乙本誤論。

可隻千古矣 隻、二本作隻、是。

2-44 今上待馮保 (甲丙)

惟癸巳年王太倉 癸巳年三字甲本無。

2-45 壬寅歲厄 (甲丙)

中宮及鄭貴妃 及字甲本無。下文「太子及諸王」之及字亦

同。

無稽之征 稽、甲本作執、丙本作菽、俱是。案、執菽即

藝、藝、極也。

2-46 壬寅上寿 (甲丙)

召臣下 召上甲本有一字。

2-47 百年四葉（甲乙丙）

自本朝建隆 自、三本作其。

日升月恒 甲本作日月升恒、乙本作日月恒升。

2-48 北台（甲乙丙）

台名曰乾德台 上台字及曰字、二本無。

鉅麗不待言 待、二本作足、是。

即有一小殿 一字二本無。

凡數軫 凡下二本有歷字。

以月夜再登 此句二本作「月下再登」。

2-49 章奏留中（丙） 無異同出校。

2-50 端陽（丙）

游人最勝 勝、丙本作盛。

2-51 七夕（丙）

中原遣祭 原、丙本作元、是。

2-52 扈從頒賜（丙） 無異同出校。

2-53 六曹答詔称卿（丙） 無異同出校。

2-54 御座後扇（甲丙） 無異同出校。

2-55 礦場（甲乙丙）

得九十六金 丙本金旁添写兩字、蓋謂金乃兩字之訛。

2-56 礦害（丙） 無異同出校。

3-1 修女戒（甲乙丙）

以驕恣犯分 諸本並無異同、惟其以字、丙本改為必、或是也。

3-2 母后聖製（甲乙丙） 無異同出校。

3-3 国初納妃（甲乙丙）

復叛誅 復、二本作後、是。

坐犯家事自焚 犯、二本作妃、是。案『明史』潭王梓伝、

王妃於氏父与其子俱坐胡党被誅、王大懼、与妃焚死。

高皇祖 高皇、二本互錯、是。案、英宗之書見『實錄』天

順六年七月癸卯条、此云五年、非是。

3-4 天家生母不同（甲丙）

嘉靖三十四年 此句甲本無。

尤多異數 多、甲本作空格。疑多乃為字之訛。

請復三年喪 復、甲本作服、是。丙本原与此同、而後人改

為服。

備享尊崇 尊、甲本作追。

3-5 列朝貴妃姓氏（甲丙） 無異同出校。

3-6 帝王娶外国女（丙） 無異同出校。

3-7 高麗女見疑（甲乙丙）

又安得褒女驪姬之禍乎 此句二本作「貽謀遠矣」。

3-8 故后無諱日（甲乙丙）

呂后竟無諱日可考 后、乙本丙本作氏。

可為歎息 歎息、二本作浩嘆。

掌礼部 掌、二本作長。

3-9 母后在位久（甲乙丙）

憲宗之考貞王后 考、三本作考、是。案、道光本不誤、乃

中華本誤排耳。

3-10 宣宗廢后（甲乙丙）

孝莊錢氏玄宮 氏、二本作后、是。

內宮監 宮、三本作官、是。案『明史』職官志三、內宮監

掌營造陵墓等諸事。

3-11 封妃異典（甲丙）

以待封拜 封、甲丙二本俱無異同、而丙本勾封字改為冊、

未必是。

3-12 帝后祔葬（甲乙丙）

大臣力諍之 句首二本有賴字。

今上孝祀兩宮 祀、二本作事、是。

3-13 廢后加礼（丙） 無異同應出校。

3-14 英宗重夫婦（丙）

陝西參議載允 載、丙本作戴。案、載非姓氏、當從丙本。

浙江之錢塘人 之字丙本無。

3-15 英宗敬妃喪礼（丙） 無異同應出校。

3-16 景帝廢后（甲乙丙）

仍令有司 有、二本作所、是。

3-17 景皇后寿考（甲乙丙）

追贈母后者又一次 又字二本無。

3-18 憲宗廢后（甲乙丙）

略無敬慎之意 敬、二本作謹。

曾効微勞 効、二本作有。

弘治元年疏抗 疏抗、二本互錯、是。丙本原与此同、而旁

有勾点、以示當乙改。

而循默于宰輔 而字二本無。

3-19 孝宗生母（甲乙丙）

万歲有子 歲下二本有自字。

遂賀頒詔 賀上二本有受字、當挾補。

独紀氏有病 氏、二本作后。

致薨事必有之 事、二本作似。

豈有謬誤 謬誤、二本互錯。

請告之天下 之字二本無。

3-20 万貴妃（甲丙）

始得見父皇 父、甲本作憲。

万貴妃恚甚 妃、甲丙二本俱作人。

旋正東宮之位 旋字甲本無。

豐艷有肌 肌、甲本作机、是。

怒極氣咽 極、甲本作劇。

傳咸伝云 伝、甲本作疏。

地中突起 中字甲本無。

唐武宗賢妃 妃下甲本有王氏二字。

孰為至尊也 句末甲本尚有「万妃亦微似之」六字。

成化二年丙戌封貴妃生皇長子將百日而薨 封貴妃三字甲本

無、以是。百日作周辟。案『明史』后妃伝、謂万氏于成

化二年生子、遂封貴妃。

必非少艾 必、甲本作已。

3-21 謝韓二公論選妃（甲乙丙）

冊封二妃 封字二本無。

左庶子 子字二本無。

疏議甚正 議、二本作義。

然次年 然字二本無。

舍是弗凶 弗、二本作勿。

次月鼎又言臣有立天下大本 句首三本有至字、言上有上

字。天下二字二本無。

慎選良家 家下甲本丙本有女字、当扨補。乙本以家女二字

誤倒。

大行山陵後 後上二本有竣字、当扨補。

帝后下 后下二本有以字、下同。

妃三十人 十下二本有六字。

則先後薨逝 則字二本無。

3-22 鄭旺妖言（甲乙丙）

武城尉軍餘 尉、二本作衛、是。

使人黃女兒 人、二本作女、是。案『治世餘聞』下篇四、

与二本同。

編修王贊 贊、二本作瓚、是。案『治世餘聞』与二本同。

王瓚、永嘉人、弘治九年進士、充講官、後歷官至礼部侍郎。

3-23 頒行女訓（甲乙丙）

慈孝高皇伝及仁孝皇后内訓 高皇下三本有后字、仁孝下有

文字、俱当扨補。

並刊行 行字二本無。

選哲婦 哲、三本作瞽、是。案、瞽婦猶言女瞽史也。

凡女七歲以上 女字二本無。

欲悅取寵 句首二本有徒字、当扞補。

素以直名何瀾倒至此也 直上二本有訃字、当扞補。句末也字無。

「近年重刊」以下、二本無。

3-24 母后諡号(甲丙) 無異同应出校。

3-25 世宗廢后(甲乙丙)

張氏為后 此句下二本有「蓋嬖倖之極亟欲尊寵之也」十一字。

忽下詔 忽字二本無。

冊封德妃方氏 妃、二本作嬪、是。案『明史』后妃伝、十年冊為九嬪之一、十三年立為后。

何文鼎輩 輩、甲本作等、乙本脱。

章聖服藥崩 崩、二本作時。丙本誤昭、而旁加點、以示其為誤字。

3-26 皇后耐廟之礼(甲乙丙)

回天之力 力、二本作功。

本朝雖未有此事 未字二本無、当扞刪。

孝貞王后 王、二本作皇。

健等始称 健上二本有劉字。

果止孝貞 句首二本有後來二字、当扞補。

孝穆耐葬別祀 孝穆下二本有則字。

寧非祧仁宗而不恤者 非字二本無、当扞刪。丙本原与此同、而後人將非改為可。又者字二本無。

3-27 孝烈耐廟(甲乙丙)

上自出睿斷 句首二本有最後二字。

即幸存亦 幸字二本無。

如南宋文帝 南字乙本無。

3-28 母后減諡(甲乙丙)

景帝廢后江氏 江、三本作汪、是。案、廢后姓汪、見『明史』后妃伝。

李后時 后字二本無、当扞刪。案、李時、嘉靖中閣臣、

『明史』有伝。

每追頌 每字二本重疊。

3-29 莊肅后喪礼(甲乙丙)

視羣情也 視、二本作覲。

3-30 嘉靖西后喪礼(甲乙丙)

孝肅后崩 孝肅、三本互錯、是。又后上二本有杭字。案、

肅孝姓杭、見『明史』后妃伝。

蓋廟室未滿也 蓋、二本作則。

3-31 母后先耐廟（丙）

入耐太廟 耐字丙本無。

諡為孝肅皇后 孝肅、丙本互錯、是。

3-32 親蠶禮（甲乙丙）

其神則祠天駟星 祠字二本無、当挾刪。

帝王所重 句末二本有也字、当挾補。

3-33 李氏再貢女（甲乙丙）

延津人李拱震 震、三本作宸、下文中華本亦作宸、則其震

字乃偶誤耳。案、『笑錄』嘉靖十四年十一月己巳、十五

年二月丁酉各条俱作臣。

拱宸之次女 之字三本無。

3-34 聖母並尊（甲乙丙）

至後唐莊宗 至、二本作独。

3-35 兩宮同在位久（甲乙丙）

情礼並申 礼、甲本作理。案、本卷宣宗廢后条有云「於情

於礼、兩皆無憾」。

修家人之敬 之、二本作礼。

3-36 今上篤厚中宮

膳修服御 修、甲本作羞、是。丙本原与此同、而後人改為羞。

未幾遂有此謗 遂、甲本作忽、是。

倘聞此語 語、甲本作論、是。

上重彝倫 重上甲本有素字、当挾補。

去冬弥天疑謗 冬、甲本作年。

3-37 恭妃進封（甲丙）

皇第二子止四歲 止、甲本丙本俱作丑、是。案、皇長子万

曆十年生、次子十四年生、正小四歲。

曹起力諫 曹、丙本作曾、諫、甲本作諍。

以慰翼坤 翼、甲本作翊、是。下同。

得並講姑媳之体 講、甲本作称、体作礼。

究竟無爽云 無、甲本作不。

3-38 郊寺保釐（丙）

有功宗社 宗社、丙本作社稷。

3-39 今上家法（丙）

憲宗之万貴妃 宗、丙本作廟。

3-40 東宮妃号（甲丙）

命內閣及礼部 內閣、甲本作閣臣。

載在史冊而 原校云「冊字挾写本補」。案、甲本冊下無而

字、乃知而為冊字之訛、当刪。

偽宋輔公柘 柘、甲本作柘。案兩『唐書』、柘柘皆誤、当

作柘。

3 | 41 王妃殉節（甲乙丙） 無異同応出校。

3 | 42 宮人姓名（甲乙丙）

蓮菊蘭荷 蘭、二本作蓮。

管大内宮事 宮、二本作公、是。

3 | 43 文臣賜官婢（甲丙） 無異同応出校。

（いのうえ すすむ 名古屋大学人文学研究科教授）

